

2011 年度事業報告書

2011 年 9 月 28 日から平成 2012 年 3 月 31 日まで

NGO ダイバーシティとやま

日本社会は、1990 年初頭のバブル経済の崩壊以降、大きく景気が後退するとともに、景気の波が途絶え、1995 年の阪神淡路大震災からは 3 度の大きな災害を経験、また 2008 年には世界的な金融危機を受け、社会全体の構造を問い直すことを余儀なくされています。さらに、昨年 3 月に発生し、未曾有の災害をもたらしている東日本大震災以降、直接の被災地となった東北地方のみならず、日本全体を巻き込み、地域社会の在り方や、ひとりひとりの価値観やライフスタイルの大きな転換期に直面しています。

こうした中、昨年 8 月に富山国際会議場で開催された、未来志向のアドボカシーともいえるドリームプランプレゼンテーションがきっかけとなり、多様な存在との共生や、つながりや絆を見出すソーシャルインクルージョンが求められつつある日本社会への提言・アプローチを行う団体として、ここ富山県を活動の拠点とし、去る 9 月 28 日に NGO ダイバーシティとやまを設立しました。NGO ダイバーシティとやまでは、ダイバーシティの普及啓発や、その取り組みの必要性の周知を図るため、11 月には、フォーラムや事例報告会を開催し、数多くの参加者との共感を得たところです。

また、12 月には、外国人の参加するワールドカフェの開催により、ダイバーシティの視点の必要性に気づき、自分自身で行動・実践していく場の提供に取り組みました。さらに、日常の情報発信として、インターネットによる記事の継続的配信を実施し、身近な存在の多様性の紹介に努めてきたところです。

こうしたことから、引き続き、しなやかな地域社会の創造に向けた提言を行うとともに、地域に貢献する社会活動の調査や、ネットワークの形成といった課題に取り組むことが必要であるため、今後、ますますの NGO ダイバーシティとやまの活動の充実化や、多様な主体による多面的連携に努めることが重要となってきています。

Ⅰ. "ちがい"に気づく事業

1. 設立記念フォーラム「富山発！未来を築くダイバーシティ」開催事業

【実施日時】2011 年 11 月 3 日（祝）

【主催】ダイバーシティとやま 【共催】一般財団法人ダイバーシティ研究所

(1)趣旨

富山県内で初めてダイバーシティを活動のテーマとする民間団体を設立するにあたり、県内においては、ダイバーシティという概念がまだまだ十分に浸透していない現

状を踏まえ、設立記念事業として、ダイバーシティの基本的な考え方を、わかりやすい事例を通じて、広く普及啓発するフォーラムを開催しました。

(2) テーマ及びスケジュール

「富山発！未来を築くダイバーシティ

～ちがいに気づき ちがいを活かし ちがいが創る しなやかな地域社会に向けて～」

第1部 挨拶と基調講演(50分) 13:00～13:50

〈挨拶・提言〉

「ダイバーシティとやまが目指すもの～多文化共生などやまの未来～」(20分)

NGO ダイバーシティとやま 代表理事 宮田 妙子

〈基調講演〉

「人の多様性が地域社会の未来を築く～Diversity & Inclusion～」(30分)

一般財団法人ダイバーシティ研究所 客員研究員 柴垣 禎

(休憩) (10分) 13:50～14:00

第2部 事例を通じて知るダイバーシティ(100分) 14:00～15:40

・報告① 「+(ふらす)思考で障がい活きる経営戦略」(50分)

社会福祉法人むそう 理事長 戸枝 陽基

・報告② 「外国にルーツを持つ子どもたちの今と未来」(50分)

愛知淑徳大学文学部教育学科 准教授 小島 祥美

第3部 パネルディスカッション(40分) 15:40～16:20

パネリスト	NGO ダイバーシティとやま 代表	宮田 妙子
	一般財団法人ダイバーシティ研究所 理事・研究主幹	鈴木 暁子
	愛知淑徳大学文学部教育学科 准教授	小島 祥美
	アレッセ高岡 代表	青木 由香
	非営利団体ひとのま 代表	宮田 隼
モデレーター	一般財団法人ダイバーシティ研究所 客員研究員	柴垣 禎



宮田からごあいさつ

(3) 内容

第1部 挨拶と基調講演

団体設立に至る経緯や背景を含め、会場に向けた熱いメッセージを発信しました。また、ダイバーシティ研究所からダイバーシティに関する基調講演をいただきました。

第2部 事例報告

・報告① 「+(ふらす)思考で障がい活きる経営戦略」

多様性のひとつである障がいを、かけがえのない個性と捉え、それゆえに発揮できる優位性を見つけ、またその優位性を社会(組織)にフィードバックすることにより、社会全体が心地よい空間となり、誰にとっても住みやすい地域社会へと転換できるといったことを、具体的な事例を通じて報告をいただきました。養鶏場や喫茶店、椎茸

栽培、中華茶房などを経営していく中で、障がいプラス要素として機能し、経営的にも組織的にも、しなやかな強さを生んでいく事例を紹介いただきました。

・報告②「外国にルーツを持つ子どもたちの今と未来」

多様性のひとつである国籍や言葉、文化のちがいを持つ外国にルーツを持つ子どもたちの現状を理解し、共生や彼らの未来のためにどのような環境変化が必要なのか、具体的な事例を通じて報告をいただきました。異なる言葉や文化を持つ子どもがいることで、そのちがいを受け容れることができない教育環境や地域社会ではどのような問題が起きているのか。また、そのちがいを活かし、子どもたちの明るい未来を築くためには、どのような教育環境の変化や周囲の大人の変化、地域社会の変化が必要か、具体的に子どもやその周囲を含めた環境が変化した事例を交えて講演いただきました。

第3部 パネルディスカッション

第2部の報告者に加え、県内でダイバーシティ活動を実践している方々を迎え、それぞれのフィールドの視点を織り交ぜながら、地域に根ざしたダイバーシティのあり方を、熱気あふれる会場とともに考えました。



パネラーのみなさん

2. SPF「人口変動の新潮流への対処」事業成果報告会「東アジアとともに生きる富山県の未来」開催事業

【実施日時】2011年11月26日（土）

【主催】一般財団法人ダイバーシティ研究所、笹川平和財団 【共催】NGO ダイバーシティとやま、富山大学、(特活)多文化共生マネージャー全国協議会

(1)趣旨

2011年3月に発生した東日本大震災以降、多くの外国人住民が日本から立ち去り、また、海外からの人の移動や投資も減少しており、今、魅力ある日本社会・地域社会の真価が問われている現状にあります。

こうした中、グローバルな人の移動に視点をおいて、現在の状況を眺め、私たちの未来に向けて、地域社会で多文化共生をはぐくんでいくことこそが、真に魅力ある地域づくりのきっかけとなると考えられます。

このため、東アジア(環日本海)を基軸として、移民施策や出入国管理制度等を含め、人口変動社会に直面している現状と未来について、包括的な議論を行いました。

(2)テーマ及びスケジュール

「東アジアと共に生きる富山県の未来」

〈挨拶〉

慶應義塾大学 教授 後藤 純一

笹川モデル(移民受入の経済的インパクト)のアウトラインの紹介

〈報告会〉

第1部 研究報告 (14:00~16:40)

〈基調講演〉 「多文化共生から始まる地域の未来」

一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎

・報告① 「日本の出入国政策の現状と未来」

筑波大学 助教 明石 純一

・報告② 「富山県での受入事例から見た現状と未来～中国人の技能実習生の現場から～」

富瀋国際事業協同組合 専務理事 林 広森

聞き手：富山大学 教授 坂 幸夫

(休憩)

第2部 パネルディスカッション (16:50~17:30)

・「地域経済を支える外国人住民と富山県の未来」

パネラー	慶應義塾大学 教授	後藤 純一
	一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事	田村 太郎
	筑波大学 助教	明石 純一
	富瀋国際事業協同組合 専務理事	林 広森
	NGO ダイバーシティとやま 代表理事	宮田 妙子
モデレーター	(特活)多文化共生マネージャー全国協議会 理事	
	NGO ダイバーシティとやま 副代表理事	柴垣 禎

3. ダイバーシティ普及啓発事業

ア. 研修・講演受託・執筆事業

ダイバーシティの理念や基本的な考え方、事例紹介などの普及啓発のため、依頼に基づき、講師の派遣、研修会の受託、原稿の執筆などを受けました。

2011年度の受託実績は次のとおりです。

- ・ロータリークラブ[2011. 10. 20]
- ・とやま cocolo 会[2011. 11. 5~12. 10] (関連事業)
- ・北陸中日新聞「NPO 通信」[2012. 3. 27~終期末定]

イ. ウェブサイト「ダイバーシティとやま」運営事業

ダイバーシティとやま主催の行事の広報や、事業実施結果等について、インターネット上で情報提供に努めました。

ウェブサイトでは実施事業の案内のほか、関連団体の主催事業や会員募集などについても広報を実施しました。

(URL: <http://diversity-toyama.org/>)

また、SNS (facebook) を活用したタイムリーな情報提供にも努め、毎回たくさんの方々の「いいね」やコメントをいただきました。



ウ. 普及啓発用パンフレット作成配布事業

紙媒体の広報としてチラシを作成し、ダイバーシティとやま主催事業での配布のほか、関連団体等への広報を実施しました。

II. "ちがい"を活かす事業

ワールドカフェ「みんなが幸せになる働き方って？」開催事業

【実施日時】2012年1月26日(木)

【主催】NGO ダイバーシティとやま

(1) テーマ及び趣旨

ダイバーシティとやまプレゼンツ新春スペシャル「みんなが幸せになる働き方って？」

富山に在住する外国人が、多数、参加するワールドカフェの手法により、日本人と外国人のちがいに気付き、対話を通じて、場が活性化することを体験しました。

ワールドカフェとは、「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの手法です。これは、単なるおしゃべりという意味の「会話」でも、勝ち負けを決めるような「議論」でもなく、様々な背景をもつ人たちと「対話する」ことがベースとなります。

多様な国の人と話すことにより、多様性をより意識化し、自分の中で新しい何かを気付き、参加者がそれぞれに創発されることを狙いとしました。

(2) 内容

寒中の大雪の中、しかも平日の夕方にも関わらず、日本の方41名、外国の方(アメリカ、韓国、中国、ネパール、ブラジル)18名、計59名もの参加者がありました。県内で開催される機会の少ないワールドカフェに対する関心の高さがうかがえました。

日本人、外国人ともに、「こんなに真剣に話し合ったのは初めて。とても楽しかったし、いろんなことを考えさせられた。機会があれば、ぜひ参加したい」といった新鮮な驚きと意欲的な反響が数多く寄せられました。

III. "ちがい"が光る事業

1. 「災害時こそダイバーシティ」開催事業

【実施日時】2012年3月31日(土) [予定]

【主催】NGO ダイバーシティとやま 【共催】一般財団法人ダイバーシティ研究所

(1) テーマ及び趣旨

「災害時こそダイバーシティ」

これまでの経験から、災害時には、私たち自身がさまざまなちがいをもった多様な存在であることを強く意識することが分かっています。過去の災害から、男女の性差や、年齢差、病気や障害の有無など、ココロやカラダのちがいは、単なる属性を超えたものとして、大切なものであることをうかがい知ることができます。

災害弱者とよばれる方々への支援活動の現場を学び、参加者すべてが体験するワークショップを通じて、ダイバーシティの大切さに気づき、ダイバーシティに立脚した復興や地域社会の在り方について考えることを狙いとしました。

(2) 内容

・講義「災害時だからダイバーシティ」

災害時の具体的な事例や支援活動から、日常生活にも活かすことができるダイバーシティのヒントを提供することができました。

講師 柴垣 禎 ((特活)多文化共生マネージャー全国協議会 理事)

2004年の新潟中越沖地震や2011年の東日本大震災時に、情報弱者となる在住外国人支援活動を行う。全国各地で災害弱者支援の研修を実施。

・ワークショップ「災害支援活動からみんなで考えるダイバーシティ」

参加者全員がグループ単位で意見を出し合い、ダイバーシティの視点を見つけ出し、そこから得られたものをフィードバックすることで、活気ある場が生まれました。

2. ブログ「ダイバーシティとやまな日々」配信事業

富山県在住者を中心として、富山を盛り上げている多様な方々にインタビューし、ブログに掲載しました。多様性のある人々の生い立ちや経験、考え方に触れることで、読者が読者自身のちがいに気づき、自身の多様性から社会的な広がりを実感していくことが可能となります。

また、こうした取材・情報発信を通じて、富山の多様な人々をつなぎ、多様性が素地となる地域社会の構築へと貢献することができました。このブログを閲覧したマスメディアからの取材依頼もあり、確かな手応えを感じました。

(URL:<http://blog.canpan.info/diversityt/>)